



発行所
西原町役場
〒903 01
西原町字嘉手苅112番地
電話 (09894) 5 4533
印刷
栄光堂印刷

町の世帯・人口		(昭和57年11月末現在)	
世帯数	4,604	世帯	4,604
人口	17,916	人口	17,916
男	9,056	男	9,056
女	8,860	女	8,860
11月の人口移動			
出生	15人	死亡	6人
転入	172人	転出	60人
婚姻	15件	離婚	2件

年頭のあいさつ

町長 宮平吉太郎



町民の皆様、明けましておめでとうございます。輝かしい昭和五十八年の新春を迎え町民の皆様にはますますご健勝の事とお喜び申し上げます。

私は、村長及び町長に就任して早や十五年目を迎え、その間、皆様のお蔭をもちまして大過なく今日を迎える事が出来ましたのは、偏に皆様のご協力に對する深い

ご理解とご協力の賜であり、年頭に当り衷心より感謝申し上げます。さて昭和五十七年は、世界的な不況と雇用失業問題、米ソの軍事拡大、中ソの接近、日本貿易摩擦、自由貿易体制（ガット）の危機、フランスを中心とした欧州諸国での保護貿易の台頭など国際情勢が一変し、昭和初期の世界大恐慌の

時に似て混沌とした状態になってきました。国内では、欧米諸国との貿易不均衡を解消するための残存輸入制限品目の撤廃と国内調整、米国の圧力による防衛力増強、増税なき財政再建に伴う行政改革、高齢人口の増加に伴う老人医療制度

活力のあるよい年に

た緊縮予算となっており、本県の第二次振興開発計画を推進する上からも極めて厳しいことがうかがわれます。

また、今年の町予算も年々の人口増加に伴い行政需要が大幅に拡大してきた反面、国内経済の落ち込みなどとも関連して地方交付税

や町税の大幅な増収は期待できないことから当然歳出の抑制を図る必要があります。政府予算と同様に緊縮予算になることが予想されています。行政改革の影響で町民の生活も厳しい状況になるものと思われ、新しい決意をもって五十八年に向けて一層努力をし、活力のあるよい年を迎えていきたいものであります。さて、今年のさとうきびのトン

当り生産者価格は、昨年より四〇円の引き上げにとどまり二万一、四五〇円と決められました。さとうきび生産者にとって大変厳しいものとなりました。今後、生産者にとっては、肥培管理、機械化による労働力の軽減、土地改良事業による生産性の向上などを図ることによってさとうきび農業の経営安定のための対応が求められて

いるように思われます。町としても今後ともさとうきびを本町の基幹産業として位置づけ、政府に対する価格引き上げ要求や土地改良事業の推進などあらゆる手段を講じてさとうきび農業の振興を図っていききたいと思っております。

昨年本町の人口は、約千人増加しはば一万八千人に達し年ごとに発展しつつあります。今後ともさらに昨年開発された県営内閣団地や西原ハイツの入居などもひかえて人口は急増するものと予想されております。

教育関係では、昨年三月に西原小学校新増設校舎が完成し、十一月には西原東小学校体育館新築工事、西原東小学校校舎新増設工事、

年頭のあいさつ

町議会議長 親泊輝武



明けましてお目出度うございます。町民のみなさんには、今年もよい年をお迎えになったことと存じます。

ご承知のように本町も今年で町制施行四年目を迎え、昨今の厳しい財政状況の中で、住みよい豊かな町づくりをめざして、一步一步

町役職員親善ソフト ボール大会賑わう

町体協（平安恒政会長）主催の第三回町役職員親善ソフトボール大会が去った十一月二十八日午前十時から西原中学校グラウンドで十

坂田小学校校舎新増設工事、西原中学校校舎新増設工事などの大型工事が着工され、今年の三月にいずれも完成する予定であり、文教のまちづくりのための教育環境、教育条件の整備は着々と図られており、今後ともいっそうの努力を傾注していききたいと思っております。

また、昭和五十五年度から着手しております町民の健康づくり、町民の交流の拠点となる町運動公園も厳しい町財政の現状ではありましたが町政の重要施策として進めていく所存であります。

昨年五月には、内閣児童公園が開園し、十月には、翁長児童公園と小波津児童公園の建設工事が進められ今年の三月に完成する予定

であり、児童の遊ぶ場、憩いの場として活用されるほか、青少年の健全育成にも一役を担うものと期待しております。児童公園の建設計画も年次的に推進していききたいと思っております。

その他、生活基盤の整備も積極的に推進して住みよい町づくりのために最大の努力を払う所存であります。

今後とも、諸問題の解決に当っては、議会及び住民のコンセンサスを得ながら進めてまいります。町民の皆様どうか本年も町政に對しこれまで同様ご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸をお祈りして新年のごあいさつと致します。

町政発展に専心努力

市町村長の選挙や市町村議会議員の統一選挙、更には復帰一〇周年の総括を占う県知事選挙、参議院議員の補欠選挙など、数多くの選挙が行なわれましたが、とりわけ昨年九月十九日に行なわれました本町の議会議員選挙におきましては、町民各位の温かいご支持を得

何卒、今後とも町民各位のご協力をお願い申し上げます。最後に、希望に満ちた昭和五十八年の門出に際し、町民各位のご多幸、ご繁栄を心から祈念いたし、新年のご挨拶といたします。

チーム（議会、農業委員、役場、町婦人会、商工会、西小PTA、西原東小PTA、坂田小PTA、西原中PTA、体協）が参加して行われ、珍プレー好プレーも続出し特に婦人会チームの健闘は立派だった。

結果は、町体協チームが優勝し坂田小PTAチームが準優勝した。

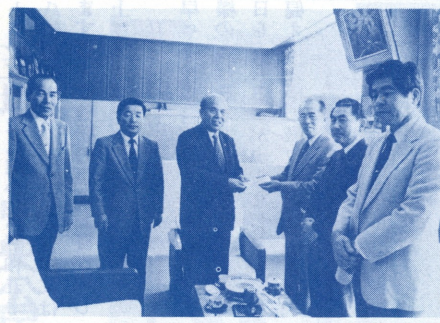


町県民税第4期分
国民健康保健税第6期分
の納期は1月31日までです。

町商工会が 歳末助け合い義援金を贈る

社会一般の福祉のために生活に困っている方々に楽しい正月を送ってもらおうと町商工会（小橋川英吉会長）から十二月八日午前町社会福祉協議会（宮平吉太郎会長）に歳末助け合いの義援金として九十七万円が贈られた。

この義援金は十一月二十六日に沖繩カントリークラブで行われた第六回歳末助け合いチャリティーゴルフ大会の収益金のほか会員からの寄付金で集められたもの。贈



商工会から義援金が贈られた

呈式は、町役場町長室で町商工会から小橋川会長、宮城副会長、与那城事務局長が、町社協から宮平会長、平安副会長、宮平事務局長が出席して行われた。

宮平会長は、町商工会の善意に感謝し、「町内の困っている方々にその義援金を贈り、温かい正月を迎えられるようにして行きたい」と述べて。

歳末助け合い募金お礼

昭和五十七年歳末助け合い募金として町社協に総額一七九万七、七九三円が寄せられ、そのお金は、十二月二十七日、町内の障害者、ねたきり老人、一人暮らし老人、長期療養家庭、母子・父子家庭、困窮多子家庭などの多数の世帯に義援金と物品にして贈られた。

尚、募金内訳は次の通り。十二月二十二日現在のもの

- ▼戸別募金（一区～十六区）
三三万八、八〇〇円
- ▼職域募金
四七万六、九九三円

長嶺内科病院 八万二、二〇〇円
城間内科病院 八万二、二〇〇円
宜野湾整形外科病院
八万二、二〇〇円
赤嶺内科小児科病院
八万二、二〇〇円
南西石油株式会社
六万六、〇〇〇円
町役場職員
四万九、三五一円
金秀物産株式会社社員
三万二、八四二円

町商工会青年部が 四小中校に図書券を贈る

子どもたちに良い本を読ませて下さいと町商工会青年部（城間武光部長）は、十二月七日、町内の西原小、坂田小、西原東小、西原中の四校に図書券（購入費）としてそれぞれ四万円を贈った。これは、西原まつりで出店した

際、収益金を子どもたちの健全育成と教育のために役立てようという趣旨。

贈呈には、城間部長、呉屋副部長、平敷副部長らが四校を訪れ、各学校の校長に手渡した。学校側では、「みなさんの趣旨にそうよう児童の読書に役立てていきます」とお礼を述べた。

寄付お礼

十二月十一日、西原ライオンズクラブ（新垣忠雄会長）から町社会福祉協議会に十万円、町老人クラブ連合会に長寿のつる四十本、町心身障害児（者）を育てる会に十五万円がそれぞれ贈られました。これらの寄付は、十一月二十八日に中央公民館で行われたチャリティー芸能の夕べの収益金で当てられました。

この紙面をかりて同クラブのご厚意に感謝申し上げます。

香典返し

十二月十七日、字我謝一〇四番地の祖堅方幸さんから故父・方範さんの香典返しとして町社会福祉協議会に五万円の寄付がありました。この紙面をかりて祖堅さんのご厚意に感謝申し上げます。

第35回県民体育大会 比嘉靖選手やり投で全県制覇

十一月二十日、二十一日、沖繩市営陸上競技場で行われた第三十五回県民体育大会陸上競技の部で本町の比嘉靖選手（二区）が一般男子やり投で五九四〇を投げ、大城真光選手以来二十数年ぶりに全県制覇を成し遂げた。比嘉選手は、天性のバネ、腕力に長身のがっちりした体の持ち主である。高校時代は、西原高校野球部の投手であった。

さらに一般男子ハンマー投げで辻野隆夫選手（十区）が二位、女子百メートルで安里広美選手が三位に入賞し、例年になく本町の選手が県大会で活躍した。辻野選手は、今年本町に移転したが、県陸上会のハンマー投げのベテラン選手である。また、安里選手は、バスケットが専門で県下でも有数の名プレイヤーであるが、今年から陸上に転向、若冠二十一才ながら県大会初出場で三位という見事な成績。

これら三名の選手は、六二国体に向けて本町で最も有望であり、尚一益の精進が期待されている。

町青年駅伝、内間が十一連勝

各青年会の親睦と融和を深める町青年団体連絡協議会（新垣良文会長）主催の第十八回町青年駅伝大会が十一月二十八日午前十時から町役場前広場で行われた。

開会式の後、正後に参加十七チームの選手が一斉にスタートし、コザ高校前折り返し六区間で健脚が競われた。

一区、二区、六区で区間賞を獲得し、総合力に優る内間が伝統の強さを発揮し十一連勝に輝いた。優勝タイムは、二時間〇分二二秒と昨年に比較して低調だった。尚、成績は次の通り。

【チーム成績】
優勝・内間（二時間〇分二二秒）、二位・十四区A（二時間三分二〇秒）



号砲一発、十七名の選手が一斉にスタートした

（秒）、二位・十四区A（二時間三分二〇秒）、三位・小橋川A（二時間六分三十八秒）、四位・東部消防組合（二時間一十三分二秒）、五位・十六区（二時間一十三分二秒）、五位・我謝A（二時間一十四分五〇秒）、六位・八区A（二時間一六分一八秒）

【区間賞】
一区・大城浩（内間） 24分54秒
二区・与儀善一（内間） 19分14秒
三区・大城貢（小橋川A） 12分47秒
四区・城間政和（棚原） 22分1秒
五区・泉川寛（小那覇A） 15分5秒
六区・大城豊（内間） 21分57秒
※★は大会新記録

昭和57年の歩み	
一月	20日 町職員採用試験
二月	15日 内間児童公園開園式
三月	16日 婦人スポーツデー
四月	23日 各区対抗バレーさんママさんバレーボール大会
五月	25日 共同利用育苗施設落成式
六月	12日 西原小学校創立百周年記念式典
七月	19日 町婦人主張大会
八月	21日 町心豊かなふるさとづくり推進協議会結成大会
九月	20日・27日 各区対抗野球大会
十月	27日 道路排水愛護デー
十一月	1日 町青少年健全育成協議会総会
十二月	3日 町民憲章制定委員会委員の
会	
一月	4日 西原クラブ女子（西原小学校のバレーボールチーム）が第二回全日本バレーボール小学生・ライオンカップ・県大会で初優勝
二月	4日 各区対抗籠球卓球大会
三月	5・19日 連玉森の造林保育事業
四月	11日 町公害対策審議委員辞令交付式
五月	16日 行政懇談会（各区で30日まで）
六月	19日 町老人クラブ大会
七月	25日 各区対抗バレーボール大会
八月	30日 町老人クラブ大会
九月	9日 町民憲章制定委員会、町長
十月	21日 玉城光雄さん、自作彫刻の
十一月	21日 西原中学校校舎新増改築工
十二月	12日 歩こう歩こう大会
事	
一月	22日 町の地鎮祭、坂田小学校校舎新増改築工事の地鎮祭
二月	22日 沖繩県石油コンビナート等防災訓練（南西石油で）
三月	26日 町商工会歳末助け合いチャリティーゴルフ大会（沖繩カントリークラブで）
四月	27日 町PTA研究大会
五月	28日 第二回ハブ対策共同作業（棚原で）
六月	28日 町役職員親善ソフトボール大会
七月	7日 西原地区児童話お話大会
八月	8日 第三回町青少年健全育成町民総決起大会
九月	12日 歩こう歩こう大会



▲商店が軒を並べ、にぎやかな上翁長



▲コバノ嶽付近から眺める下翁長の全景

はじめに

六区は、翁長を主体に勤仕協翁長団地を含み、三七五世帯、一、五〇七人を擁する行政区である。人口は、八区に次いで二番目。面積は、〇・九四四平方キロメートル、南北に一・五キロメートル、東西に一・三キロメートルである。

翁長は、今帰仁毛のすそ野にある旧西原間切時代の主邑（しゅむら）であった。旧藩時代にはこの翁長村に間切藩所（現在の西原の塔）があった。その後も村役場が置かれ西原村の主邑であった。本町ではじめて、翁長に小学校が設置されたが、それが翁長に設置された理由は、地理的に西原のほぼ中央に位置し、児童が通学するのにどの字からも均衡がとれていたことがあげられるだろう。明治十五年の設置当初は、西原間切藩所の一角にカヤギ校舎をつくり、児童三十人でスタートしたが年々児童数の増加に伴ない明治二十年前後に現在の西原中学校の所に西原小学校を移転し、終戦まで卒業

生をそこから送り出した。現在も地理的条件が良いことから、坂田小学校、西原中学校、県立西原高校、町立坂田保育所、私立西原しらゆり保育園などの学校、保育所が設置されている。まさに保育所から高校まで同区内で通うことができる。

村（間切）馬場も現在の西原中学校校門前にあった。また、村内で唯一の神軒（神アシャゲ）がある部落である。

位置

六区は、本町のほぼ中央部に位置し、一区、二区、四区、五区、十六区に隣接している。大別すると丘陵部の上翁長と平野部の下翁長に分けられる。

上翁長は、戦前まで人家も間ばらであったが、現在では、県道三八号線沿にスーパー、飲食店、家具店、建材店、電気製品店、文具店、薬局などの商店が軒を並べにぎやかである。坂田小学校、西原

高校、坂田駐在所も上翁長にある。上地区で最もにぎやかなところである。

下翁長は、翁長公民館付近を中心に集落が密集しており、旧所や拝所などが多い。県道三八号線沿は、商店や事業所が多くにぎやかである。また、西原中学校、私立西原しらゆり保育園、西原の塔などがある。

県道三八号線は、六区のもの中をほぼ南北に約二・二キロメートル延びている。

おらがまち (七)

六区＝翁長

移民

明治三十九年頃ハワイへ仲宗根太良氏が移民し、その後、多数の人たちが結婚や呼寄せで移民していった。現在では翁長出身者の一

世、二世、三世、四世まで含めると総勢四百人を超える。ブラジル移民の最初の渡航者は、第一回移民として明治四十一年に笠戸丸に乗り込んだ仲宗根浦氏であった。その後、多数の人たちが移民していった。

ペルー移民は、明治四十年頃、稲福太郎氏が渡航し、以後多数の人たちが移民して行き、昭和三十四年頃にはその数二十四世帯を数えた。それは、我々の二十八世帯に次いで本町で二番目に多い数であった。

このように移民が多数続出した理由は定かではないが、いづれにしても高い確率で移民が行われたのは確かであり、部落の歴史を考えると上からも移民問題は翁長にとって重要なものである。

十年前の新聞にこのような記事があった。

「翁長部落は海外移民も多い。ハワイ、アルゼンチン、ペルーに約六百人いる。手広く農業をしているもいて、ほとんど成功し、戦後は毎年のように、十人内外の人たちが故郷の見舞いにやって帰ってくる。公民館建設のときも、資金はこうした海外在住者の送金で当でられた」とある。

戦前の翁長は、純農村であった。いも、サトウキビを植え、豚を養うという当時の沖縄の一般的な農村であった。戸数は二八〇～二〇〇戸位で、人口は千人余であり、村内でも大きい部落（字）であった。

前述の仲宗根浦氏は、十六歳の時にブラジルに渡り、契約先のカーン耕地から四ヶ月目に逃亡、その後、珈琲の選別、珈琲の荷揚げ人夫、綿作などの仕事を転々と営み、初期移民の艱難辛苦の状態を逞しく生きた方である。

ヨンシー

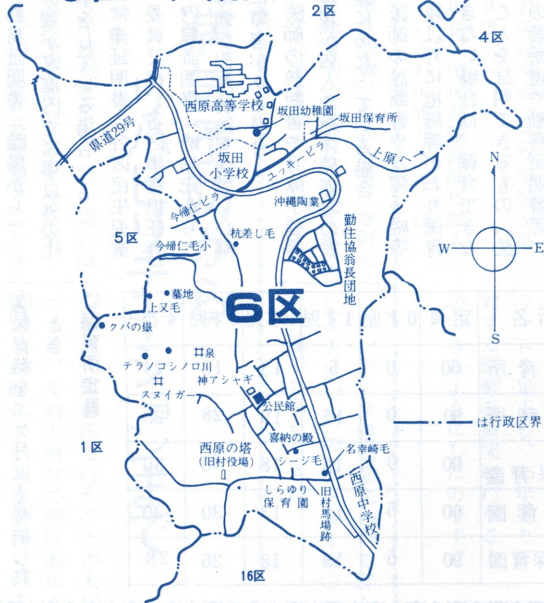
この「ヨンシー」は字翁長の年中行事の一つである。毎年、旧暦八月七日から十五日にかけて、主に部落の子女だけで行う。

この行事がいつ頃から始められたか定かではない。伝承によると昔、部落の創始者であるヨナヌシ（与那城小家）老人が、農繁期に子供たちを預かったことに始まるという。この老人は預かった子供たちを遊ばすために縄をない、そ



子どもが行うヨンシーの行事

6区の概観図



の縄をつかまえて部落中を歩き回りながら遊ばせたという。ヨンシーは、長さ約六メートル、太さ十五センチ程度。旧暦八月七日、シージモーに字民が集合し、御願を行う。その日はムチグワートウイー（餅取り）が行われる。子供たちがヨンシーの縄を頭上にかかげ、「翁長ヌヨンシー、ヨンシー」と唱えながら、部落の西はすれにあるティランキ

公民館の裏側にある」に集まる。その前にトグロ巻にしているヨンシーを子供たち七・八名が頭上にかかげ、シージモーとティランキの間の七往復した後、その日のトシ（十二支）によって杭差し毛、上の毛、名幸崎毛の何れかの山に「送る」。字の青年が扮するミヤラビとナギナタをもった武士を先頭に、子供たちのヨンシー、字民と行列になって鐘や

門中

与那城小門中（仲宗根姓）は、この部落で最も古く、農繁期に部落の子どもたちをあずかり婦人に畑仕事をさせたと伝えられる「ヨンシー」の創始者である与那城老人の子孫である。

そのほか、門中には、翁長地頭を代々勤めた家柄の喜納（仲宗根姓）石川市伊波からきた仲（城間姓）、薄下（城間姓）、玉那覇（城間姓）、上門（糸数姓）、川端（城間姓）、タカラ小（西原姓）などがある。廃藩置県後、新垣姓、吉川姓、新川姓などが入ってきた。



6区事務担任者 仲宗根信政

- ▼人口 一、五〇七人 ▼世帯数 三七五 ▼面積 〇・九四四平方キロメートル ▼人口密度 一五九六人（一平方キロメートル当たり） ▼耕地面積 三〇・五四ヘクタール
- ▼事務担任者 仲宗根信政
- ▼老人クラブ 会長 西原裕 昌 ▼婦人会 会長 沢崎栄子 ▼ハッピー子ども会 育成会長 根路銘雄、ラッキー子ども会 育成会長 豊平安子、パンダ子ども会 育成会長 糸数翁長に
- 喜納ガ、シージモー、西原の塔、ユッキービラ、旧村馬場跡、スヌイガ、川田、上ヌ毛、翁長に
- 火神、テラノ、コシノ川、翁長神アシャゲ、喜納之殿、地頭火の神、

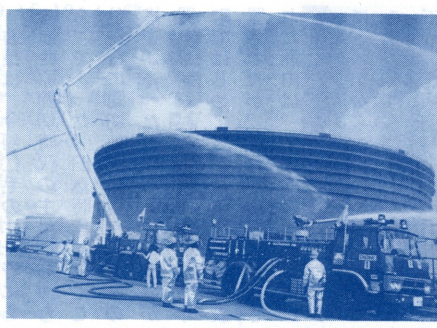
原油漏れ火災を想定して 大規模な防災訓練、南西石油で

石油コンビナートでの特殊災害を想定した防災訓練が、十一月十二日午後二時から本町の南西石油株式会社で行われ、本番ながらに繰り広げられた。

この日の訓練は、屋外原油貯蔵タンクから原油が漏れて火災が発生し、その消火に当たるとともに消火作業中に負傷した消防隊員の救助を想定。

主催者は、県、町、東部消防組合消防本部、南西石油株式会社。訓練参加機関は、中城北中消防組合消防本部、与那原消防衛生施設組合消防本部、東部消防組合消防団、与那原警察署で参加人員約二百人と大がかりな訓練であった。

関係者約三百人が見守る中で午後二時に巡視中の保安職員が発見無線で通報、直ちに南西石油社の化学消防車三台が出動して一斉放水を行った。



油火災を想定して防災訓練

成人式のお知らせ

本町では、法律的にも、社会的にも一人前の人間としての義務と権利を有する成人の日をお祝いする成人式が次の通り

日時 一月十五日午後二時～五時

水。十分後に東部消防本部の高所放水車三台が、七分後には中北消防から、二十分後には与那原消防も駆けつけた。

現場には、万一に備えて訓練防災本部が設置され、東部消防本部の指揮で本格的な消火活動が行われた。一方、負傷した消防隊員の救助など述べた。

町青少年健全育成 町民総決起大会終わる

青少年健全育成に対して町民の理解と自覚を促し、明るい町づくりを町青少年健全育成協議会（宮平吉太郎会長）主催の第三回町青少年健全育成町民総決起大会が、十二月八日午後一時半から中央公民館で関係者約二百名を集めて行われた。

健康と安全を共通テーマに 町PTA研究大会

PTAの果たすべき使命を再確認し、PTA活動の充実発展を図ろうと町PTA連絡協議会（新川雅博会長）主催の第二回町PTA研究大会が、十一月二十七日午後二時から西原小学校体育館で関係者約百五十人を集めて開かれた。共通テーマは「健康と安全」。

時 場 所

中央公民館

対象 昭和三十七年一月十六日から三十八年一月十五日

生れの方

お問い合わせは町教育委員会（電話一五二三六五）へ。

新川大会長、平安助役、親泊議長、伊良波沖P連会長などからあいさつを受けた後、西原小PTAの宮平昌信会長によって「PTAは子どもの健康と安全確保のためにどのように活動したらよいか。」と題して研究発表が行われた。これまでの取り組みの中で、児童のケガの実態、スクールゾーンの実情、研修会などについてこれまでの経過と成果が報告された。

この後、坂田小、西原小、西原中が、それぞれ、健康、安全、生活などについての現状報告を行った。

最後に、吉川武彦先生（琉球大学教授）による「これからの子育てと学校教育」と題する講演が行われ、参加者に大変好評を博した。

交通安全作文標語の 審査終わる

昨年に引き続き、町交通安全推進協議会（宮平吉太郎会長）では、児童に交通安全に対する認識を深めさせようと小学生を対象に交通安全作文・標語を募集したところ、町内の小学校から多数の作文、標語の応募があり、十一月二十四日二十五日に審査が行われ、優秀作品が選ばれた。

尚、優秀作品は次の通り。

【作文の部】

【一年】あらかきひろあき、なにかまき、はなしろめぐみ、なみひらゆうこ、おもしろまりこ、ともりじゅんこ（以上西原小）

（以上西原東小）

【五年】小波津秀樹、宮平敦子、宮里尚子、城間美由紀、友利哲也、（以上西原小）玉那覇裕子、呉屋久美子、玉那覇俊也、大宜見佳子、三盛伸子（以上西原東小）

【六年】新里英史、金城妙子、金城美智子、比屋根加代子、城間房子（以上西原小）、山里美智江、大城勝則、大城さおり（以上西原東小）

【標語の部】

【二年】宮城正美（西原小）

【三年】外間聡子（西原小）

【四年】宮平直樹、玉井潤（以上西原小）

【五年】平山一昭（西原東小）

【六年】城間淳（西原東小）

保育所に入所させたい方は 二月五日までに申請を

町福祉課

昭和五十八年度（四月一日）

保育所入所希望児童については次のとおり入所申請書を受け付けます。

（一）母親が家庭内で家事以外の仕事をしている場合

（二）母親がいない場合

（三）母親が産前産後や病気、心身に障害があったりする場合

（四）母親が病人や心身障害者の看護にあたり場合

（五）家庭の災害による場合

（六）前各号に該当する場合でも、その家庭に母親以外の人が児童の保育が可能な場合は、入所できないこともあります。

（七）町役場福祉課で受け付けます。

（八）保育所の目的

保育所は、その児童の保護者が働いていたり、病気だったり等で、児童の保育にあたることのできない場合保護者にかわって日々保育する児童福祉施設です。

（九）保育所へ入所できる基準

（一）母親が家庭外で働いている場合

（一）母親が家庭外で働いている場合

（二）勤務証明書（職場から）

（三）母親が家庭内で家事以外の仕事をしている場合

（四）営業証明書（各区分民生児童委員又は、各区分事務担当者）

（五）内職証明書（納品先から）

（六）母親が産前産後や病気・心身に障害がある場合

（七）医師の診断書や身体障害者等に該当する場合

（八）母親が病人や身体障害者の看護にあたり場合

（九）医師の診断書や身体障害者等に該当する場合

（一〇）母子生活支援センター等が保育が可能な場合は、保育できないこともあります。

（一一）保育所に入所申請書

（一二）保育所入所申請書

（一）保育所における集団生活に支障があると判定されたとき。

（二）保育料を二ヶ月以上滞納したとき

（三）保育所定員

保育所名	定員	0才児	1才児	2才児	3才児	4才児
西原保育所	60	0	5	13	18	24
坂田保育所	90	0	15	19	28	28
西原百合保育園	90	0	12	18	30	30
愛和保育園	90	5	12	13	30	30
さざなみ保育園	90	5	13	18	26	28

※四月入所申請については、一定の期間を定めて受け付けを行っています。その後の場合は、町役場福祉課で受け付けておられます。

はたち、のみなさん国民年金に加入しましょう。